

別高NOW!!!

No.19 R8. 2. 17

予餞会

1月30日(金)に行われた予餞会(卒業生を送る会)では予餞会実行委員・生徒会のメンバーを始め、3年生も含めた有志の生徒や吹奏楽部、さらには先生方が企画に参加しました。3年間でまとめたスライドショーや、在校生や先生方が出演してのクイズ企画の映像、演奏・ダンスなど様々なパフォーマンスで3年生を和ませました。



予餞会実行委員では、3年生の3年間の思い出をスライドショーにまとめました。3年生を送って、これから自分たち2年生が最高学年になるのだと実感しました。また3年生と同じ学校で過ごせなくなることですごく寂しくなってしまうと思いました。

予餞会実行委員長 2年B組 山本晃聖 野付中学校出身



予餞会は、実行委員と生徒会が力を合わせて運営していて、その一員として関わることができて良かったです。3年生に感謝を伝え、笑顔で送り出すことができました。別れは寂しいですが、先輩方の新たな門出を心から応援したいと感じました。

生徒会会計 1年C組 堀内勇希 別海中央中学校出身

総合的な探究：模擬授業

2年生は総合的な探究という授業で複数の班に分かれ「なぜだろう?」「どうしてだろう?」と思ったことについて調べています。ある班は「これなら受けたいとなるような古典探究の授業」をテーマに、実際に模擬授業を行いました。内容としては一班にひとつ、古典の物語が与えられたあと、生成AIを用いて現代風の台本を作成し、実際に演じてみるというものでした。どんな人物なのか、どんなことをしているのかについて調べて、役割分担! いざ皆の前で演じている姿はとても楽しそうでした。



私たちの班は古典探究の模擬授業を通して、授業作りの難しさや時間配分、生徒一人ひとりに向き合う大切さを学びました。また、体を動かす活動や班活動など生徒主体の授業が、楽しさと学びの両立につながると感じました。今後も授業に向き合っていきたいと思います。

2年B組 河島梨々香 中標津町立広陵中学校出身

総合的な探究：こども食堂まーるでの販売

また、別のある班では「地元の食材を活かしたい」というテーマの下、子ども食堂まーるでピザの販売を実施しました。当日に至るまで、先生方に試食をしてもらい、その評価を受けて何度も試行錯誤を繰り返したことで当日販売することができました。具材には酪農経営科が育てた野菜(かぼちゃ・じゃがいも)を使用しました。



総合的な探究：発表会

2月9日(月)5、6時間目には総合的な探究の最終発表会があり、合計14班が発表しました。1年間話を聞きに行ったり、実験したり、一生懸命スライドを作ったりして積み上げてきたものの集大成を、別海小学校5年生や外部の方々が総勢約80人もの方々がお越しになる大舞台で発表!

どのような雰囲気だったかについては、次号の別高NOW!!!でお伝えします。お楽しみに!

【校長連載シリーズ⑧ チーズ製造】牛乳を搾るだけでなく、何か加工品を作りたいと考えるようになりました。隣の食品科学科ではアイスクリームやヨーグルトを作っていたので、私たちはチーズ作りに挑戦することにしました。チーズはピザなどにも使えますし、生乳の価値を高められる加工品です。また、低温殺菌した新鮮な牛乳でなければうまく固まらないため、酪農を学ぶ生徒にとって良い教材だと直感的に思いました。そこで、牛舎を建てるときにチーズ専用の加工室も作りました。当時は、チーズを真空パックして冷蔵庫で熟成させる方法が一般的でした。しかし私たちは、表面にカビが生え「リンド」と呼ばれる皮のある、本格的なナチュラルチーズを作りたいと考えました。そのため、地下のピットを深くして専用の熟成庫を設けました。ところが、最初はまったくうまくいきません。熟成中にベタベタになったり、割れてしまったりと失敗の連続でした。プロの方に助言をもらいながら、何十回も作り直しました。この経験から学んだのは、続けることの大切さです。同じことを何度も繰り返すことで、技術や知識は少しずつ身につけていきます。やがて、生徒と毎週同じチーズを作り、近所のスイーツ工房に出荷する取り組みを約2年間続けました。生徒たちの技術は大きく向上し、安定して質の高いチーズを作れるようになりました。同時に、関連する知識や、ものづくりに向き合う職人としての心構えも身につけていきました。我々はいくつもの知識を求めがちですが、同じことの反復と継続根気がありますが、教科書の知識にはない大切なことを教えてくれます。